

国語科「国語総合（現代文）」授業実践紹介

授業者：岡 宣之

学 年：1年

単元名：評論（1）「水の東西」

本時のねらい

- ①他者に向けて、根拠を持って（他国文化との比較）説明できる能力、態度を養う。
- ②自身のこれまでの生活を振り返り、日本の伝統、精神、生活様式に親しみを抱き、文化の魅力を考えることができる。

授業の流れ

- ①日本の文化と他国の文化との比較をもとに、日本特有の文化について考え、自分が西洋人にあげたいプレゼントを決めます。そのプレゼントの魅力や選んだ理由など、説明文を書くためのメモを作成します。
- ②プレゼントに関する説明文を400字以内で作成し、発表に向けた練習をします。
- ③グループ内で発表をし、相互評価をします。また、グループ代表者を決定します。
- ④選ばれたグループ代表者がプレゼンをします。最後に振り返りを行います。



授業のルーブリック

	2	1	0
I 関心・意欲・態度	積極的に自国の文化について考え、説明文作成、発表に向けて意欲的に活動している。	自国の文化について考えようとしていて、発表もできている。	自国の文化について考えられておらず、発表もできていない。
II 読む能力	他国との比較をもとに「日本特有の文化」について、具体的にまとめることができている。	「日本特有の文化」について、具体的にまとめることができている。	「日本特有の文化」について、まとめることができている。
III 話す能力	周りと視線を合わせながら発表できている。	原稿に時々視線を落としながら話している。	周りを見ずに原稿を見ながら話している。

単元を通して身につけてほしいこと

比較という手法を用いて具体的に文章を書けるようになり、自信を持ってクラスメイトに発表できるようになってほしいと考えています。そして、日常生活の場面において、自国の文化について再度考え、親しみや誇りを持ってほしいと考えています。また、他国では全く異なる文化が成り立っていることを理解し、他者理解のできる柔軟な物の見方を身に付けるきっかけとしてほしいです。

実践の背景

- 読解をすることに終始せず、教材を通して重要概念に関して考え、自らの生活に結びつけることの出来る授業を目標としています。この単元では「文化」という重要概念について考え、日頃意識をしていなかった身の回りの「日本らしさ」について気付き、他国の「文化」が成り立つ背景についても理解しようとする姿勢を身に付けさせたいと考えました。
- 自らの意見を論理的に述べる力を身に付ける授業展開を意識しています。今回は「比較」という手法を学び、それを生かして文章を書く課題を設定しました。

授業改善のアプローチ

- 高校入学後に初めて扱う評論文ですが、作者の考えを読み解いた上で、自らの生活と結びつけて発展的な課題に挑戦できるよう工夫しました。そうすることで、評論文にも親しみをもち他者の考えに触れる楽しさや意義を感じ、さらには、身近な家族やクラスメイトの意見にも耳を傾け、よりよい人間関係をつくる力をつけさせたいと考え、単元を設定しました。
- この単元では、グループになり自分の考えを発表したり相互評価したりすることで読みを深める活動を取り入れました。

単元のヤマ場となる授業場面

単元の構成

第1次（4時間）	第2次（1時間）	第3次（3時間）
段落ごとに読解を進める。日頃なじみの薄い「鹿おどし」や外国の情景などは動画等を用いてイメージを持つ。説明を聞くだけではなく、「日本人の感性」に関する記述や他国文化に関する調べ学習にも取り組む。	別教材「わたしはあなただったかもしれない 大脇三千代」を読み、比較を用いた論理的文章展開を再度学習する。	単元を通して身につけさせたい資質・能力（自国の文化に親しむ姿勢・他者に論理立てて説明できる力）をはかるために以下のパフォーマンス課題に取り組む。

パフォーマンス課題

あなたは2020東京オリンピックボランティア委員に選ばれました。そこで知り合ったヨーロッパ選手とのお別れの際、あなたは「日本特有の文化」のプレゼントをあげることになりました。あなたならどんなプレゼントを選ぶか、クラスメイトに説明してみよう。

- ① 作成した説明文と、画像か実物を用いてグループ発表をする。
- ② ルーブリック評価をもとにした相互評価をし合う（20点満点）。

評価

次の3点で今学期の評点とした。

- ①パフォーマンス課題に対する評価（35%）

	A	B	C
I 内容	他国との比較をもとに「日本特有の文化」について、具体的にまとめることができている。	「日本特有の文化」について、具体的にまとめることができている。	「日本特有の文化」について、まとめることができていない。
II 話す力	周り目線を合わせながら発表できている。	原稿に時々視線を落としながら話している。	周りを見ずに原稿を見ながら話している。

- ②一枚ポートフォリオによる評価（15%）
- ③定期考査による評価（50%）